

**Q 1 : 中期経営計画に掲げる成長投資 500 億円について**

中期経営計画に掲げる成長投資 500 億円の内容を教えてください。

**A 1 :**

再生可能エネルギーへの投資や他社との資本提携などを考えている。将来的には海外のパートナーとの提携も模索していきたい。

**Q 2 : 生産性の向上について**

生産性向上への取り組みの中で、工場で作成したプレキャスト部材を現場で組み立てる工法（スクライム工法）を活用することだが、プレキャスト部材の都心部への搬入やストックするコストが上昇しても、在来工法と比べて、コスト・生産性の面で有利なのか。

**A 2 :**

現場でコンクリート打ちすると膨大な日数がかかるが、スクライム工法を活用すると工期の短縮が可能となるメリットがある。現在の労務の状況により、運送費を掛けても経済ベースで検討できるようになった。工期、コスト、安全、品質等を含めて総合的に検討して、お客様にご提案している。

**Q 3 : 生産性の向上について**

中期経営計画に「生産性向上 10%」と掲げているが、前中計期間中に生産性がどの程度向上したのか教えてください。また、説明にあったロボット化などの技術が本格的に貢献してくるまでは 3~4 年以上掛かると思うが、他にも中計期間中の生産性向上施策があるのか。

**A 3 :**

前中計期間中の生産性向上については、1 人当たり完工高で考えると数%改善しているが、今後 3 年間で 10%の改善を目指していく。

また、ロボット化については、まずは当社プレキャスト工場内での実用化に取り組んでいる。その他、当社の次世代生産システム（SMile 生産システム）にも掲げている BIM・CIM の推進により、更なる生産性の向上に取り組んでいる。

**Q 4 : 高速道路の大規模更新事業について**

高速道路の大規模更新事業の市場規模が急速に増えているなか、既存のプレキャスト工場の生産能力で対応できるのか。

**A 4 :**

大規模更新事業の施工場所は全国各地にあり、当社だけで対応できるものではない。専門の会社と JV を組成し、その工場を活用するなど、地域毎に戦略を立てている。

**Q5：働き方改革への取り組みについて**

働き方改革への取り組みに関連するが、適切な工期を設定していきたいというゼネコンが増えており、顧客の理解が進んでいるように感じるが、状況は変わってきているのか。

**A5：**

週休2日の実現に向けて、受注段階から交渉しているが、民間の発注者の方々も働き方改革への意識を持ち始めて頂いている。公共工事については、国交省を中心に様々な方式で検討して頂いており、今年はかなり前向きな形で発注がなされると聞いている。

**Q6：海外受注について**

海外受注が好調だが、大型案件獲得の背景は価格なのか、それとも独自技術によるものなのか。また、海外事業拡大として、特に注力するエリアがあれば教えてほしい。

**A6：**

昨年、バングラデシュ、ミャンマー、フィリピンで土木系の大型工事を受注したが、大事なことは、現地での施工体制が整えられるかということである。現地の施工能力を加味したコスト競争力の高さが工事獲得の要因だと考えている。

注力エリアとしては、建築の施工実績が多いインドやシンガポールの他、フィリピンやベトナム、グアム、マレーシアで引き続き需要がある。ミャンマーやカンボジアには、駐在員事務所を開設しており、日系企業の進出にあわせて展開していく。アフリカでは、タンザニアにおけるODA案件を継続して取り組む。

以上